令和3年度兵庫県産科婦人科学会生殖・周産期協議会報告

生殖・周産期協議会

委員長：田中　宏幸

副委員長：山下正紀　船越徹

日時：令和4年3月17日

　　　18：00-20：20

開催形式：Web

参加者数：65名（特別講演会）61名（協議会）

令和3年度兵庫県産科婦人科学会生殖・周産期協議会は昨年に引き続きWeb開催とさせていただきました。最初に兵庫医科大学産科婦人科学講座准教授　福井淳史先生に「妊娠予後改善のため～不育症診療アップデート～」というテーマでご講演をいただきました。

講演会後もたくさんの方にお残り頂き、生殖周産期協議会を開催しました。

令和3年度生殖・周産期協議会議事録

講演会（18：00-19：10）

「妊娠予後改善のため～不育症診療アップデート～」

座長：兵庫医科大学産科婦人科学講座　臨床教授　田中　宏幸

演者：兵庫医科大学産科婦人科学講座　准教授　福井　淳史

令和3年度生殖・周産期協議会（19：10-20：20）

司会：山下レディースクリニック　山下　正紀

　　　兵庫県立こども病院周産期医療センター長・産科科長兼部長　　　船越　徹

司会：令和2年度の議事録をもとに議論を進めていきたい。

議事録提示

まず最初の議題として

1)ハイリスク、難治（濃い例、合併症等）患者の対応への対応についてについて議論を進めたい。

昨年度片山前委員長より当協議会で話に出た凍結ARTの出産例のトラブル、分娩時出血がホルモン補充の症例で高まるということであったが、その件についてご教示ください。

片山前委員長：昨年の生殖医学会で発表した。ホルモン補充周期と自然周期の胚移植において産科合併症、分娩時合併症について調べた。自然周期の方がトラブルが少なかった。癒着胎盤、弛緩出血、分娩時出血（1000ml以上）の頻度がホルモン補充周期の方の方が高かった。自然周期に胚移植したほうが、産科合併症、分娩時合併症が少ないので推奨している。

集計はしていないが妊娠時絨毛膜下血種（SCH）もホルモン補充周期の方が高い、流産もホルモン補充周期の方が高いと思われる。

司会：以前より癒着胎盤は重大な結果を及ぼすとされているが、周産期施設ではいかがか？

周：データを取っていないがART妊娠の方で産科合併症が多いということはなかったと思う。合併症が多いといわれるホルモン補充周期で妊娠された方は高次医療機関に紹介するということはありますか？

生：移植の方法で紹介施設を選択していることはない。年齢や合併症がある場合は、高次医療機関に紹介している。

周：ART妊娠の方もたくさん取り扱っている。高齢妊娠のリスクもあるがART妊娠として1つのリスクをつけている。SCH,分娩時の出血、胎盤が出にくい印象がある。癒着胎盤の疑いがある場合は高次医療機関に紹介している。

周：癒着胎盤の診断はどうしていますか？

周：2ndトライミスター後半から3rdトライミスター前半にかけて診断を行う。USGやMRIを行い診断する。前回帝王切開術後の方で術創部あたりに胎盤がある場合はリスクが上がる。

生：ホルモン補充周期で妊娠された方で癒着胎盤が多いと心配している。USGである程度診断し高次機関に送ることができると考えてよいか？

周：胎盤の前壁付着は評価できるが後壁付着は評価が難しい。前回帝王切開術で前回術創を覆う前置胎盤や低置胎盤で慎重にみている。

２）周産期医療施設から生殖医療施設への要望

３）生殖医療施設から周産期医療施設への要望

周：低用量アスピリン療法、ヘパリン療法について

　生殖医療機関から周産期医療機関への紹介の際、期間について

生：今までの生殖・周産期医療協議会でも何回も話題に上った議題ではあるが

生：着床不全、Ⅻ因子でひっかかりアスピリンを使用するような場合もある。その際も

紹介状に書いている。HDP予防でアスピリンを使用する場合もあり、周産期施設で継続するかどうか決めてほしい。

周：根拠不明のアスピリンの使用もある。患者に聞いても分からないし紹介状にも書かれていない。中断するという判断も難しい。添付文書で28週までとなっており28週で中止している。生殖医療機関への要望としてアスピリン投与の根拠を患者に説明してほしいし、紹介状に書いてほしい。

生：前の病院からアスピリン服用するように指示されている場合もある。

生：当院ではアスピリン、ヘパリンについて明確な基準がある。妊娠を継続されている方が、

生殖医療機関に処方の継続を希望され戻ってこられることがある・

周：担当医の考えによる。保険で処方するのか、自費で行くのか？
生：抗リン脂質抗体の方で保険適応の方でも処方を希望し来られることがある。

周：保険で行けるものは周産期医療施設で処方していると思います。

司会：HDPの発症予防でのアスピリン投与は、海外で発表されているし、国内でも研究レベルで投与していることもあるが、日本では予防投与で保険適応ではない。

生：

周：ある大学でアスピリン継続してくださいという方がいた。

周：近隣のクリニックでHDP予防でアスピリンを投与している。

生：臨床研究でされている。

周：きっちり同意書を持参されている。

周：麻酔科の考えにもよるが、アスピリン、ヘパリン投与中の方の緊急帝王切開術は全身麻酔が多い

司会：周産期医療施設から生殖医療施設への要望はありませんか

周：ART妊娠の方の対応をしているがきっちりとした方を紹介いただいている。途中で高次医療機関に紹介することもあるが多くない。

周：A病院でARTされB病院で妊娠管理されていた方が紹介されてくる際、A病院の紹介状がないことがある。自然周期やホルモン補充周期がわからないことがある。他府県からの紹介ではそのあたりが十分でないことがある。

司会：今回9回目を迎えるが当初様々な問題を指摘されてきたがその指摘を受け、この会を通じて生殖側も対応してきたのかと思います。

周：里帰り症例で漫然をヘパリン投与されている方でいつまで継続してよいのかわからない。どこの施設で妊娠されていたかわからない。

周：生殖から周産期のつなぎはうまくいったが、周産期から周産期へのつなぎがうまくいかなかったということしょうか？

４）新型コロナウイルス感染症の各施設の対応

周：先月までにコロナ陽性妊婦は100名を超えている。基本的には保健所の指示に従って自宅待機してもらっている。36週を超えた方は神戸市立医療センター中央市民病院にコロナ対応の診療所法提供書と普通の産婦人科の診療情報提供書、検査データのコピーを送付している。陣痛発来したときに連携を取っている。中央市民病院が対応できないときは西市民病院、西神戸医療センターに対応してもらっている。断られた際は過去に1例自院で対応した。経腟分娩で、分娩後は母児分離した。現時点で37週を超えた陽性妊婦はいない。周：かかりつけの妊婦は対応している。妊娠初期、中期の方は当初CCCを通じて紹介している方もいたが、最近は自宅対応が多い。MD双胎の1児死亡の死産誘導の方がコロナ陽性になった。数日様子を見て症状なく入院してもらい死産誘導した。

周：周産期医療施設の方に34週を超えた方不安を抱える妊婦にコロナ検査はどうなっていますか。当院では1例もない。

周：希望される方もおられましたが、いずれも陰性でした。

周：0例です。最近は説明もしていない。

周：切迫早産でコロナ陽性で、リトドリンを処方していたが通常であれば、来院いただくが診ることができなかった。

周：生殖医療施設ではコロナワクチンについてどう説明をされているのか

生：不妊学会やアメリカでも推奨され提出いるので、推奨している。いつの時点でも接種してよいと推奨している。

周：自然妊娠された方でもワクチンの接種に戸惑わられる方も多い。一般の方も接種されていない方が多い。

生：積極的に接種を推奨している。

生：採卵周期、移植周期、妊娠初期でも摂取の機会があれば接種するように伝えている。接種に対し拒否反応を示す方もいる。

周：問診表にワクチンを打ったかどうか聞いている項目を作成している。最近はほとんどの方が2回接種済みの方が多い。

生：オミクロン株になってからたくさんの方が感染している。クリニックを受診される方も陽性の連絡を受けることも珍しくない。

周：コロナウイルス感染症下で生殖医療施設を受診される方は一時減少しましたか？
生：2年前は生殖医学会の指示通りに採卵、移植を一時中止したので減少したが、だんだん元に戻ってきているが採卵数はコロナ前に比較し2－3割減少している印象でいると思う。

生：同じ傾向である。

周：分娩数が日本全国で減少している。昨年は神戸市立医療センター中央市民病院コロナウイルス対応の影響で増えたが今年度は減っている。

周：妊婦のコロナウイルス感染症治療（抗体カクテル療法など）についてどうされているか？

周：コロナウイルス感染分娩周辺期は当院で対応している。初期中期はコロナケアセンターにお任せしている。

周：妊婦に関してもこのような治療をすすめていけばよいと考えており行政に働きかけていきたい。

周：コロナ患者に対し問い合わせがあったが、横浜の方では使われているので使用してもよいとなっている。無症状であり、使用しなかった。

５）その他

周：4月より人工授精が保険適応になるが施設基準について　生殖補助医療を行っている施設と提携していることとなったがどういうことか

生；体外受精をしている施設として夜間休日の医療連携を取るようになっているが、通常の登録医ではだめではないか？文章を取り交わすなどの手続きが必要といわれたが、近畿厚生局に疑義紹介をしている。昨日の厚労省のQ&Aに関しては提携に関して触れられていない。

司会：現在混とんとしてわからない。

生：3月20日に発表がありそれを待ちたい。

司会：本日様々な内容で情報交換、意見交換ができた。明日からの診療にお役に立てていただきたい。この地域のこの両機のレベルが上がっていくことを祈念し会を閉じたい。

たくさんの方に参加いただきありがとうございました。